

ネットのトリセツ —覚えていますか？あなたが残した言葉のタトゥー—

山口天慈, 黒田百華, 緒方梨々花, 煙山芽衣

⁽¹⁾延岡高等学校 Nobeoka High School

Abstract

現代社会において、SNSをほとんどの人が利用しています。しかし、SNSが普及するにつれて、誹謗中傷が増えています。そこで、誹謗中傷の蔓延を食い止めるための対策が必要だと考え、私たちは研究を始めました。実験にはアンケートとメモカルクタラワを使用しました。
(メモカルクタラワの説明は実験の項に記載。)

実験を通して、誰もが誹謗中傷について真剣に考えました。また、画面上だけの誹謗中傷は、人体にも悪影響を及ぼすことがわかりました。今回の実験で明らかにできなかった部分については、今後も研究を続けていきたいです。

In today's society, there are few people who do not use social networking sites. However, as social networking sites become more popular, the number of slanderous remarks rises. Therefore, I began researching the need for some countermeasures to stop the spread of slander. The experiment was conducted using a questionnaire and a memocalctalawa.

(The description of the memocalctalawa is given in the section on experimentation.)

Throughout the experiment, everyone was thinking hard about slander. It was also found that slanderous comments that are only seen on the screen also have a negative impact on the human body.

We would like to continue to study the areas that could not be clarified in this experiment.

.Keyword slander / Memocarukutarawa / SNS

1. 序論

(1)研究背景、研究の目的

今、私たちはスマートフォン1つでSNSを閲覧したり投稿できる時代になっている。以前は趣味で始める一般人が利用者の大多数を占めていたと思われるが、現在ではSNSが社会に浸透したことで企業や有名人までもが実名で参入していることも珍しくない。それに伴って誹謗中傷というワードが社会的に問題視されるようになった。誹謗中傷は年々増加している。そこで私たちは、誹謗中傷の拡大を食い止めるためには何か対策が必要だと思いこの研究を始めた。

(3)過去の研究成果

誹謗中傷で炎上した事件では、あまりに誹謗中傷を行っていた人が多すぎたため、実際の書類送検は特にひどいと判断された十数名に絞られた。

(4)研究仮説

誹謗中傷が増加している理由は匿名性と近年のSNSの普及に関係していると考えられる。また、現状、誹謗中傷ができなくなる仕組みなどが具体的にないこと

から、SNSアプリに誹謗中傷を抑える仕組みが必要だと考えた。

2. 調査方法

(1)材料

- ・パソコン
- ・メモカルクタラワ

(2)調査方法

- ・今の日本のスマートフォンの普及率とSNSアプリに内在するあらゆる機能を調べる
- ・参考文献を集める（論文、記事など）
- ・ネット上の誹謗中傷に関するアンケートを無作為に選んだ人に行う
- ・メモカルクタラワを使用し実際の心情を把握し、誹謗中傷が人に与える影響を調べる
- ・結果をまとめ、考察を行う

(3)アンケートの内容

- 1 訹謗中傷は増えてきていると思いますか？
- 2 訟謗中傷が増えている理由はなんだと思いますか？
- 3 SNSで見た詬謗中傷に共感したことありますか？

3. 本論

(1)(実験)結果1

無作為に抽出した生徒にいくつかの質問を投げかけ
得られた結果で表した

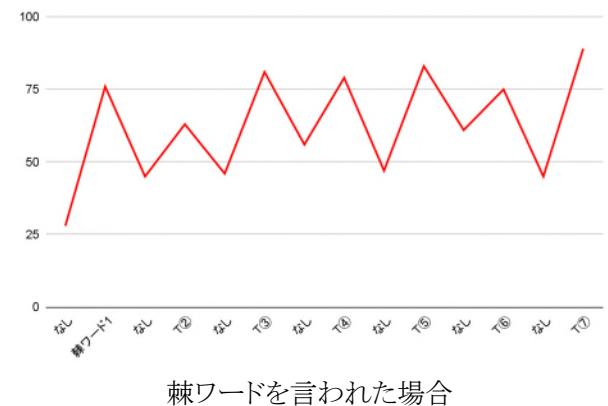
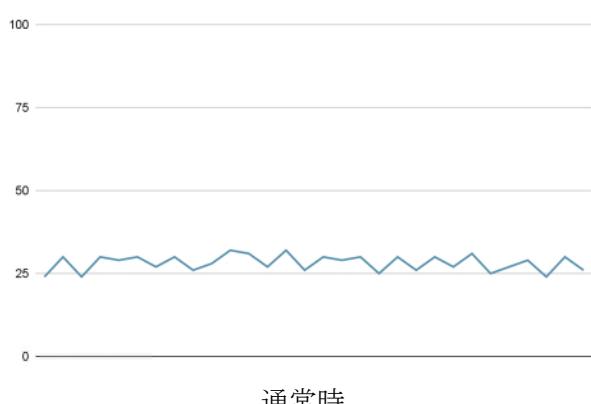
- 1 訟謗中傷は増えてきていると思いますか？
はい…93.8% いいえ…6.2%
- 2 訟謗中傷が増えている理由はなんだと思いますか？
・SNSの普及 ・子どものスマホを持つ時期が早い
・匿名性
- 3 SNSで見た詬謗中傷に共感したことはありますか？
はい…100% いいえ…0%

(2)結果2

自分で棘ワードを設定し、それらを投げかけたときの
交感神経の変化をメモカルクタラワを使用して調べた。
詬謗中傷を読んだときの人間の感覚に近づけること
で提案手法の精度向上を目指した。

メモカルクタラワ…様々な状況においての人間の交感
神経、副交感神経などを測ることのできる機械。

棘ワード→「馬鹿、きもい、嫌い、嫌われる、死ね、無
理、不快、怖い、臭い、クソ」



通常時と比べ、棘ワードを言われた場合、交感神経の
数値が高くなっていることが分かった。

(3)結果3

SNSアプリに潜在する、あらゆる機能を探し、今までの
炎上事件をもとに特徴を探した。↓
「BADボタン」がないアプリ(ツイッター、インスタグラム
など)が多いので、「いいね」が押されているからとい
つて良い内容の投稿であるとは断言できないとい
うことが分かった。

(3)考察、結論

今のSNSにおいては詬謗中傷対策として、ユーザーの
通報により詬謗中傷している文章の削除であったり、投
稿しているアカウントの凍結などの対策が人間の手によ
って行われているが、人間の手作業による限界が既に受
け取り手に見られている可能性がありこれらの対策では
不十分であると考えた。この問題を解決するためには罵
詈雑言や詬謗中傷を自動的に判別し、未然に投稿を防
いだり、受け取る側の設定で未然に非表示にしたりする
機能が必要であると考えた。

5. 展望

考察で述べた、【BADボタン】の導入について、現実と
すり合わせながら考えていきたい。

6. 謝辞

本研究で、メモカルクタラワを提供してくださった、九
州保健福祉大学様、並びに本研究に助言を下さった
本校の先生方、この場をお借りして感謝申し上げます。

7. 参考文献

総務省 令和3年度 日本人のインターネット利用者数

学術論文 総務省 情報11号 ネット炎上の実態